

13
2945
20



門へ13
2945
流巻 20



二十九日
泉

昭和九年
七月九日
博末

鎮西八郎 椿説弓張月拾遺卷之二



第四十九回

東都

曲亭主人編次

三畧を速て松壽鶴と救ふ

鷲巢山小李趙首次喪ふ

典膳所和義美令の官人亦ハ鶴が井の中より声を發するを以てゆる盗賊ありと。隼雄の壯伎西三人戦をりて刺んとす。老兵亦慌しく推禁めりていさやう。りそのまの刃川揚ぶして刺とす。供御ふすかす。水と穢さを却て吾侪の越度とる。生拘るも殺すも。す。鐔の越を。父えあぐてこそ。と。り。衆皆これ小後ひく。壯伎亦ハ器械を合せて井を成て。老兵を内中系りて。利勇。縁由を訴たり。このと。利勇ハ既ハ。房よりたり。れ。この訴は。岸破と起されハ。九庸の盜賊。ま。

吉野
田邊町下田
花子洲

春分...

あし。矇雲が間者ありん小。そやぐ松壽が告あして。四門を固めよ。
 くれえうぐ出く。瘴の為体をえるべれと。答も果ぞ。枕方なれ。劔を
 帯て。里之子ふ指。燭が兼じ。中がて典膳所ふ赴たて。好まひ。老兵
 亦み。瘴の容をさる。且く頭が傾けつ。しややう。矇雲を。幻術小長
 下。彼が間者やう。風のごく。走り。煙のごく。滅失ごうも。量がじ。
 縦井の水が穢さる。大事の敵をさり。逃さる。只刺殺せと。
 下知され。えじめ。刺んとし。壯俊。ホらけ。あつ。と。答も。あつ。持たれ。
 戦をさり。なほして。突ご。さん。と。さる。折る。松壽。忙しく。走り。耳。戦
 めて。刺んとし。社。俊。叱退つ。利勇。對ひ。今宵の。椿事。へ。今
 老兵。して。あし。も。あ。よ。つて。その。緊略。を。あ。れ。り。か。む。り。れ。癡者。を。さ。と
 て。生拘。じ。ま。れ。ぞ。引。出。じ。ゆ。ん。と。い。ひ。う。け。て。ま。ん。と。を。れ。を。利勇

あし。と。め。て。改。を。ら。ち。掉。軍。師。甚。兼。忽。ち。り。矇雲。の。幻術。あり。彼。が。間者
 あり。せ。ば。隱。形。の。術。を。さ。る。ん。や。これ。を。生拘。る。み。難。く。殺。さ。る。れ。いと。易。
 さ。あ。あ。あ。あ。あ。と。あ。う。り。自。ら。顯。り。て。い。も。傷。痛。く。松壽。の。倍。と。容。と。あ。う。あ。
 古人も。胤。は。投。る。器。を。忌。と。し。て。り。彼。の。め。を。引。揚。ぎ。て。殺。さ。る。ぞ。
 器。を。投。る。胤。を。打。ふ。し。と。く。井。を。失。く。を。我。小。損。あり。と。の。城。え。来。水。は
 之。雞。を。裂。ふ。牛。刀。が。用。ひ。多。あ。い。う。み。ぞ。や。縱。矇雲。が。後。兵。な。り。と
 ぞ。も。こ。も。その。術。を。ほ。る。あ。め。ら。じ。凡。隱。形。の。術。は。四。つ。あり。水道。と。い。ひ。
 火道。と。い。ひ。木道。と。い。ひ。土道。と。い。ひ。是。の。水。道。ハ。あ。か。より。と。形。成
 隱。火道。ハ。火。が。入。て。形。を。隱。木道。ハ。木。に。隠。れ。土道。ハ。土。に。隠。る。
 這。奴。井。に。落。て。ほ。も。物。を。手。に。束。て。縛。を。や。り。の。り。適。う。に。術。を。た。故
 なり。思。ふ。を。費。し。ま。す。事。久。と。憚。る。事。久。と。諫。ま。り。利勇。ハ。る。は

ふりとなぐりひねがら。さふ引揚よと下知さるふそ。衆皆釣籠の索
を多保おしけ。井の底をじ詠れ目今引あげひきさるを。索のじし
推つてよとほひうけて。手おく索引かきまき地より引揚。矢庭
これに傳めけり。さて燭を秉。件の癖者を入ら。あふふ似せ年紀
十四五むりなれ。美少年ありしう。あふ果と舌吐と。えそ
言語をよとりのひ。當下利勇の勢。あふす。這奴矇雲ふあふさる。
幻術あれこそ。かれ美少年と化て。人を眩惑し隙をみ規めて脱去
あやあふんぞん。大約幻術をて。形を變るに。穢きりの気法かかれ。
その術忽地破れとて。のり。この典膳所と申す。
下知され。暗曉まきうい。某全く野公は。大里山なる獠者の
兒子。二郎金と名う。のり。鬻の羽を賣とんとて。毎日。城下小

役事。んが。きのふより放されて。城中へ出入する。経年。この典膳所と申す。
あふ山海の味。影あり。世小あふんとひて。かかれ。酒佳殺。一又
なりともなふ。とあふん。あふ。とあふ。ん。き。きて。ひ。い。ぐ。な。不。彼。此。と。ん。ゆ。
の。間。日。ハ。暮。て。城。門。を。鎖。し。出。べ。た。や。も。あ。ふ。い。ハ。半。部。の。蔭。ハ
ありさ。や。と。あ。ふ。且。す。一。の。い。と。ほ。い。れ。ハ。さ。ろ。銚。く。も。潛。入。ふ。
は。して。心。地。に。井。お。落。下。れ。し。あ。れ。命。を。助。て。と。と。實。を。申。す。欺。れ。り。
利勇。これ。を。受。て。左。右。を。え。り。這。奴。を。認。む。の。あり。や。と。向。か。一。人
の。老。兵。と。み。より。て。熟。し。と。ら。觀。り。寔。は。こ。の。の。り。の。ま。き。の。か。鷲。の。羽。と。ま。ん。
と。と。あ。の。し。り。の。こ。と。し。あ。利。勇。且。く。尋。思。し。ら。し。あ。く。這。奴。が。爲。体。あ。の
ひ。び。ぬ。ま。入。獠。者。あ。ん。ど。の。子。あ。の。あ。い。あ。れ。え。よ。膚。身。の。身。甲。を。被。り。
今。テ。その。声。を。あ。ま。ま。く。に。毛。國。將。に。似。し。る。の。こ。の。あ。い。に。面。執。も。又。訪。傳。り。



春分月合書

林説月合書

この疑ふべしもあらず。國典が孩兒勝なり。父があへく討てし。はなせし罪科
 とあへた。小舟をおく処をすまに。私の怨をりて。これを粗辱せんとす。これこそ
 奇怪なれ。きり引きて首を刎よ。といへた。高く下知され。流るるを
 見透されて。脱どが。とさつても。怒り。眼は涙を合て。背へすのせ。巻
 を握り。利勇。小走り。からんと。まづ。し。う。引。や。索。撲。地。と。輾。び。膝
 立ち。海。へ。嘆息。あへた。ま。は。名。告。不。及。と。國。の。為。に。忠。を。盡。せ。し。ま。

父。何。の。罪。あり。と。ま。は。汝。が。淫。言。の。舌。の。根。切。て。亡。父。の。冤。を。と。す。小
 雪。人。と。て。多。中。寢。戟。を。枕。と。し。斬。よ。う。う。れ。か。ひ。も。ま。り。命。運。終。は。全。う。

て。かく。縛。られ。ま。は。今。ハ。一。日。も。存。命。を。我。を。恨。く。く。ハ。利。勇。阿。公。ホ
 か。首。を。取。て。孝。を。考。妣。は。ほ。も。盡。さ。と。殺。さ。ば。殺。せ。九。つ。の。世。を。行。ふ。も。冥
 を。引。き。飽。ま。で。ま。と。ひ。あ。ら。ま。で。中。己。人。と。声。高。中。う。に。罵。ま。は。利。勇。阿。公。

と。冷。笑。ひ。汝。釜。中。の。魚。と。な。り。て。ま。は。牙。の。分。際。を。あ。ら。は。壁。ハ。蚊。蚋。の
 山。を。負。ひ。精。衛。と。し。る。る。の。海。を。填。ん。と。ま。は。等。しく。牛。ま。て。ま。及。び。ぬ。

身。後。を。憑。し。ら。ま。と。く。愚。る。り。ま。毛。國。典。を。誅。せ。仰。よ。う。て。その。罪
 を。正。せ。り。阿。公。が。ある。こ。に。あ。ら。は。と。ら。せ。も。あ。へ。ど。声。を。あ。り。ま。い。へ。と。

の。う。ま。や。人。を。欺。く。も。い。う。て。う。天。を。欺。く。べ。た。汝。ホ。が。奸。計。ハ。矇。雲。國。師
 の。は。つ。ら。ま。つ。つ。り。と。も。ま。は。年。少。や。と。只。一。句。由。説。破。ま。は。利。勇。阿。公。

あ。へ。ど。大。に。母。驚。た。劍。を。抜。き。走。り。か。れ。を。松。壽。衛。と。奇。く。推。ま。め。大。臣
 一。時。の。怒。小。乗。し。この。少。年。を。殺。し。め。敵。ハ。英。氣。を。そ。あ。り。な。り。

曉。浜。ま。ら。ざ。れ。某。頃。日。間。者。ハ。首。里。へ。遣。て。窺。せ。し。毛。國。典。が。子。も。

鶴。亀。ハ。寧。王。女。の。冊。ま。で。小。琉。球。を。宣。北。母。脱。れ。去。主。徒。赤。瀬。の。碑。石。の
 ほ。ろ。に。ぬ。く。潜。び。く。居。る。の。を。矇。雲。と。ま。り。て。矇。の。筑。登。之。禍。獸

利勇の相
 王の怒り
 矇雲の
 矇雲の怒り

を牽ひく。彼嶋みに通渡かして主従しゅを替かへんとせし折やくら。天孫てん氏の威いも
 よめて禍わざハ土中とちうに滅めす。王女わうハ不思議ふしぎに社やしろに死しす。何なに地ぢともあらずに脱だつ
 去さりし経けいに賊兵ぞくへいホと辛くるじて。鶴亀つるかめ同胞どうぱうに槍やりをく。あれをおいて首里しゅりへ
 かりにたれハ矚しやく雲うん件けんの胞ちゆう兄あにを憐あはれ。密ひそに謀まう畧りやくを示して。大臣だいじんを替かせん
 こと。あられども大臣だいじんの運えん高かうくして。今夜こんや密ひそに生せい拘かう多たり。某たれつゞく。矚しやく雲うん
 奸計けんけいを察さつすれ。鶴つるり。大臣だいじんを替かへ。速すみに火ひを放はなす。暗号あんごうとせよとて
 賺ませるあらん。あらん大里おほさと長川なががわより山やま蔭かげに軍兵ぐんべい夥おほく伏ふちきて短兵たんべい
 争まがふ。この城しろを乗のりらん。とあそ計較けいけうけ。亦また密ひそに便宜べんぎを汲ひきし。槍やりと
 争まがふ。大臣だいじん怒いかれ。これを殺ころす。あらん。さるとれハ大臣だいじん私しの怨うらをりて孝子かうし
 を殺ころす。あらん。毛國けいこく丹にの世家せかに。よく民たみの心をほり。今いま矚しやく雲うん
 死し討うして。名家めいけの児孫いそんを誅しゆす。あらん。これ民たみの望のぞみを絶たたり。民たみの望のぞみ絶たたり。

とれハ軍威ぐんい震ある。軍威ぐんい震あるとれハ。この城しろまぐたれら。只ただく度ども
 めひく。世よの悔くを御ご示しすと。席せきを拍うて。練れんる。その辨べん舌じつ爽そうはして水みづの
 流ながる。あんと。ま理りを稱たへ。利勇りゆうハ呆あまれて技わざをせし。劍けんをみ。靴くつを
 ちか。あられとれハ。い。軍師ぐんし計策けいさくありや。と。同どうハ松壽しょうじゆ莞然わんぜんと。うら笑え
 て。敵てきの謀まう。就すて。謀まうを行いふ。易やすし。あられども。大臣だいじんこ。死し用もちひ。あらし。と
 いふ。利勇りゆう忽いち氣きを。変か軍師ぐんしの。あられ。これを。あらし。こと。の。あらし。用もち
 と。用もち。あらし。の。便宜べんぎを。擇えらむ。あらし。と。い。あらし。は。松壽しょうじゆ。右みぎ。あらし。
 かりて。あらし。侍しやく。徒と。あらし。腹心はらこころの。あらし。と。謀まう。密ひそに。あらし。は。且かつく
 遠離とんり。あらし。と。い。利勇りゆう。あらし。暗くらを。りて。その。意い。あらし。あらし。の。典てん照てう
 所の。官人くわんにん。ホ。里さと。之これ。子こ。と。あらし。あらし。に。あらし。あらし。退まう。あらし。當下たうげ。松壽しょうじゆ。の
 膝ひざを。あらし。あらし。を。低ひく。大臣だいじん。矚しやく雲うんを。滅めさんと。あらし。あらし。徳とくを。りて。あらし。あらし。報ほうひ

つる 務代免して中城の按司に任じ。結する家を嗣し。人あるとたに一旦禍歎
に害怕く。曙雲に降糸せしものも。恨を悔徳を慕ふて。まじりかへ
まじりべし。直を奉く衆の曲とするの取措とたの民後どとりては
これハ是戦して勝の謀にして行ふ難く。用ひるも甚し。
とらぬ利勇これを父て眉を聳れ。勝を逆臣毛國典が子あり。りこれ
をしも重用して。按司とせ。賞罰を干て正しめ。これハ決して用ひ
かじ。別謀ありやと。同の松壽答く。某既此の畧を定む。今ハ此
上策あり。亦中策あり。下策あり。あれを行ふこと。却難し。まじりさも
己ハ勝るといふ。利勇かきめて。何を中し。何を下とせ。それ
をしとて耳はし。まじり松壽も頷をほき。あけし。今夜曙雲兵を
て。落城火を放る。待さるる。さ。天の明。此間ハ危登之。火

はりて。落を大里のあま。松壽巢山に引到らし。流く首次。初る。体
をせし。まじり。曙雲が軍兵。ホ。その謀の漏る。火。て。遠て。首里へ。ゆる。べし。
そのと。某。四五百の。遣兵。を。長川。を。さし。塞。れ。これ。を。誓。ひ。麿。五。せん。
かくて。落。を。城。中。に。引。入。り。て。松。壽。に。領。を。後。亦。謀。あり。これ。を。中。に。策
と。と。又。下。策。と。い。落。を。賞。せ。と。罰。せ。と。して。放。ち。て。ゆる。し。ま。り。曙。雲。其
を。量。り。て。か。う。く。し。く。南。風。原。に。寇。を。う。る。に。大。臣。の。二。の。の。の
を。擇。む。人。夜。も。い。く。深。く。な。り。あ。け。な。は。それ。も。う。ひ。ま。し。と。い。ひ。そ。う。せ。ば。
利。勇。は。く。く。と。ら。ち。夢。て。下。策。の。行。ひ。易。し。と。い。へ。も。落。を。放。り。へ。さ。ん。と
を。謀。の。足。り。ざ。ら。ぬ。似。し。り。それ。の。中。を。執。る。し。と。心。腹。の。抗。登。之。趙。豹
李。虎。を。呼。び。て。機。密。を。低。語。の。件。の。友。人。ら。を。ほ。く。中。に。落。兵。に。五
六十人の。兵。卒。を。後。へ。て。直。に。鷲。巢。山。に。赴。く。み。ぞ。松。壽。も。夥。の。軍。兵。に。ほ。く

城を土字平の北に長川大里を投て走らる。程母龜の兄は諫
られて。流るるにても残ア。城溝のほとりふす。星の光乃
流ゆく。暁がさちうなりぬ。後々音はれ。かくてあふれ
ぬ。とて。潜び入ると。忽地城門を。却りして。兵卒五六
十人。毎手に。器械を把。蕉火を。つりて。踏を。縛めて。真中に
さり。團を。北を。投て。ぞい。ゆく。電を。この。形勢。を。嘆嗟。と。むり。うら
驚き。多勢。が。中に。殺。入り。兄弟。り。あ。死。ん。ど。刀。の。鞘。を。取
かけ。び。び。と。ひ。め。ら。せ。目。の。あ。ま。る。大。敵。を。かけ。逆。ひ。と。果。敢。と
志。き。る。も。ひ。せ。と。同。胞。一。奇。討。死。せん。大。き。な。不。孝。なり。と。う。と。く
も。滅。する。兄。が。言。語。の。耳。底。に。さ。は。り。お。が。る。あ。う。と。う。と。う。り。が。と。れ。胸
を。抜。て。け。る。ら。打。も。蒐。ら。と。と。せん。かく。せん。と。躊。躇。バ。亦。軍。兵。四。五。百。人。

つれて城を出。かくて。及。び。が。と。と。ひ。え。て。忙。しく。懐。より。續。松。を
とり。出。し。敵。の。振。こ。げ。せ。し。火。を。う。て。前。の。士。卒。を。ら。ち。は。て。兄。が。先。途。を
え。果。んと。後。方。に。跟。う。り。も。に。走。れ。ぬ。も。烏。夜。を。人。怪。す。と。趙。豹
李。虎。と。松。壽。の。先。が。ち。て。只。顧。小。路。を。い。そ。げ。ハ。川。良。の。橋。を。さ。り。て。辨。嶽
の。さ。ら。形。と。る。れ。鷲。巢。山。に。あ。み。け。れ。と。冬。の。夜。の。こ。と。な。れ。いと。長。く。て。そ
天。の。い。ま。と。明。が。り。た。この。地方。北。を。辨。嶽。を。つ。れて。茂。林。を。う。り。南。を。岨
高。く。して。屏。風。を。建。てる。こ。と。に。され。ハ。利。勇。ハ。松。壽。が。謀。を。用。を。り。と。の。故。を
拉。ぐ。に。こ。ろ。なく。只。誘。を。の。こ。い。が。せ。と。ひ。く。後。の。患。は。と。う。あ。る。と。い。ふ。
趙。豹。李。虎。小。耳。語。の。が。件。の。あ。く。領。諾。して。鷲。巢。山。に。到。ると。や。と。敷。皮
の。う。入。小。誘。引。を。え。松。壽。ハ。汝。が。助。人。と。て。ま。ま。ぐ。に。さ。り。世。が。その。謀。迂。遠。し
汝。亦。既。ハ。矇。雲。が。刺。客。と。なり。ハ。城。中。に。潜。び。入。られ。ハ。大。臣。決。して。放。し。て。を。



新編 忠臣蔵 巻之四



鷹巣山に
兄弟を
救ふ

本言 忠臣蔵 巻之四

ナ

涌つぐごとく。當あるべし。もあらざれば。南風原の兵卒へいその戦いくさは。破やぶれ。易やすし。株かぶお
 破やぶれ。あのの刃やいばに。制せいす。れ。命いのちを。損こら。す。の。九く餘じゆ人にん。その。餘あまり。存ぞん。残ざん。を。負お。む。も。み。
 右みぎ。散ち。れ。去さ。れ。敵てきの。大だい。將しやう。真ま。先せん。馬ま。を。出い。で。逢あ。は。せ。と。呼よ。ぶ。り。り。
 の。大だい。將しやう。へ。別べつ。人にん。あ。の。大だい。將しやう。の。謀まう。は。よ。う。て。大だい。里り。山さん。の。ほ。ろ。ろ。の。也や。鶴つる。龜かめ。の。
 暗くら。号ごう。せ。南なん。風ふう。原げん。の。城しろ。を。乗のり。さ。り。と。准まも。ら。れ。る。耳みみ。目め。官くわん。全ぜん。廣くわう。の。り。の。日ひ。
 曙あけぼの。雲ぐも。へ。高たか。樓ろう。を。登のぼ。り。て。誘さそ。電でん。が。敵てき。に。苦くる。ら。れ。る。を。あ。り。て。け。れ。は。足あし。捷せつ。兵へい。の。
 大だい。里り。山さん。へ。遣つた。へ。て。あ。ら。び。全ぜん。廣くわう。の。謀まう。を。付つ。け。は。し。この。曉あけぼの。は。鶴つる。鳥とり。巢すだま。山さん。に。赴おもむ。き。て。
 利き。勇ゆう。が。士し。卒そつ。を。怒こ。ら。し。し。誘さそ。電でん。を。も。刺さ。殺ころ。せ。よ。は。や。勢せい。漏ろう。れ。る。の。あり。も。
 長なが。追お。ひ。さ。さ。う。た。敵てき。の。新あらた。軍ぐん。の。加か。る。所ところ。は。速すみ。く。川がは。へ。入い。り。て。辨わ。蔵ざう。の。麓ふもと。に。出い。で。
 其その。処ところ。の。山やま。見み。お。が。家いえ。を。乱らん。妨ぼう。し。て。ま。か。く。べ。し。と。下くだ。知ち。せ。し。全ぜん。廣くわう。の。期き。を。
 違ちが。ひ。大だい。里り。山さん。より。馳か。ま。り。て。軍ぐん。兵へい。を。二ふた。倍ばい。に。さ。し。う。ち。半はん。の。外ほか。の。敵てき。を。追お。ひ。し。

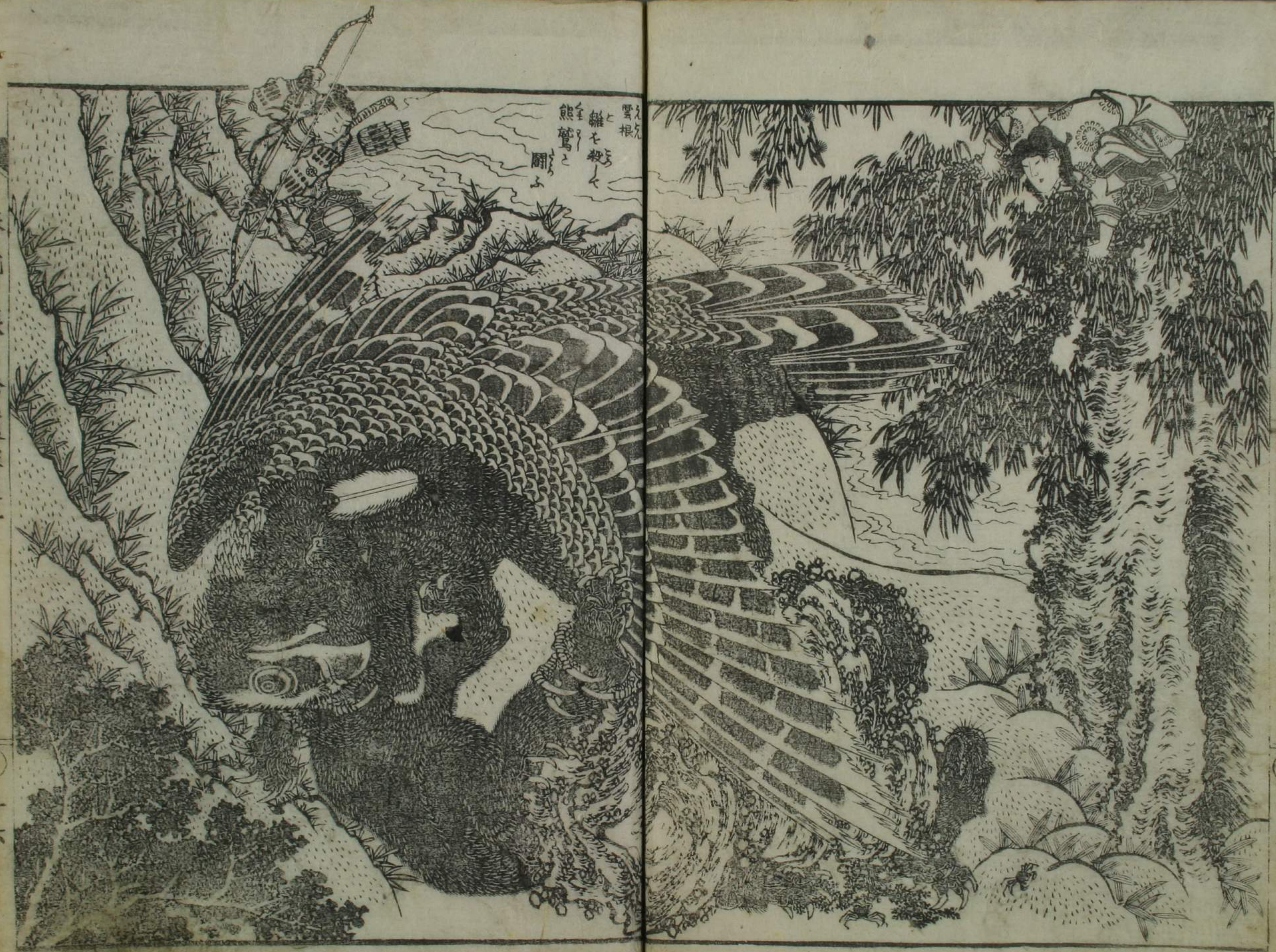
半はん。の。龜かめ。を。射い。せ。し。う。龜かめ。の。毒どく。蛇へび。の。頭あたま。を。脱ぬ。き。て。あ。ら。び。虎こ。狼ろう。の。あ。ら。び。し。
 刀や。を。う。り。て。箭や。を。切き。り。し。且かつ。く。これ。を。防か。ぐ。と。い。ふ。も。脱ぬ。き。果は。つ。も。あ。ら。び。され。は。今いま。
 の。命いのち。を。さ。ら。し。の。ゆ。て。死し。せ。も。足あ。り。も。な。し。山やま。邊へ。の。土つち。と。あ。ら。び。と。あ。ら。び。
 む。ろ。を。ち。ろ。ろ。と。身み。を。持も。ち。て。谷や。底そこ。へ。真ま。逆さか。ち。し。小こ。轆ろ。ひ。落お。ち。お。君きみ。真ま。物もの。の。擁よう。
 護ご。あ。ら。び。け。ん。あ。ら。び。も。身み。を。傷や。む。は。さ。さ。う。と。見み。も。急いそ。ぎ。ま。り。と。あ。ら。び。
 憑よ。り。て。足あ。ら。び。と。あ。ら。び。か。れ。と。松まつ。の。風かぜ。の。こ。答こた。へ。て。あ。ら。び。探た。れ。も。物もの。の。あ。ら。び。
 へ。と。脱ぬ。き。去さ。り。て。猛まう。き。獸けつ。も。あ。ら。び。は。い。う。あ。ら。び。ひ。と。し。や。あ。ら。び。な。く。
 ち。り。ま。り。も。せ。あ。て。死し。を。こ。え。て。長なが。見み。別べつ。見み。殺ころ。な。が。た。夜よ。も。中なか。明あ。み。れ。と。あ。ら。び。
 谷や。蔭かげ。に。あ。ら。び。暗くら。く。其その。処ところ。と。呻う。吟げん。て。あ。ら。び。も。な。く。ま。り。と。あ。ら。び。
 ち。り。ま。り。も。石いし。滴た。を。掬く。べ。と。あ。ら。び。か。く。た。滯とど。ま。り。袖そで。も。宿とど。る。星ほし。の。影かげ。も。あ。ら。び。と。あ。ら。び。
 ち。り。と。明あ。け。か。の。山やま。鳥とり。は。あ。ら。び。と。あ。ら。び。常とこ。を。あ。ら。び。と。あ。ら。び。か。く。た。峯たかね。の。雲くも。涙なみだ。の。射い。れ。

黙然としてぬらびらぎを袖うたのけて退出る。案下某生再脱脱の
 就鳥巢山あてとうらびも。才亀が援をばく越約が刃と脱れ李虎と
 砍伏小たれと鮮血小岨を踏とじて。数百何なる谷底へ滾くと粘り落
 る。誰うあふん山の脚ふいとたれる栗の樹ありて枝葉參差として生
 繁なり。さながら棚を架た種を敷る小異なる。その樹の又へ落ると
 ありにたれば幸はして身を傷らざれども膝をうじて息絶したが。あじ入
 事をあふざりたる。さるからに亀の樹のうへ小兄がをさるといひうけぞ。あ
 ぢが鳴か答なれば。なや彼此をたづめりて。兄弟終ふはもあぢと
 かくし行ふ。その夜もあけて梢を拂ふ山下風よあふおく雲の障からて。
 鶴が咽喉を潤しければ。忽地小甦生して頭を擡と見かうれば足曳の
 斧もあふぬ山猿あふて怪しや我の梢あり。その樹のうへと四丈も

あふふんとあぢした。あ下あれたえて枝もさるれば。足を踏くけんやうもあふぞ。
 さいらうしてをりさると。あぢとえれとさふもかれ。雲の命のあはれ活るかひ
 さらんぞあぢと。あぢやうらさうらういふあひけん。とむうりに。胸はしとらる
 すて。翅をたふも蜘蛛の網あ。かれ蝴蝶の夢の世を。あぢと悟れと餓瘦れ
 て。あぢつらまも直下せ。樵夫のかよあ路ありけり。些れり。さうちうの
 する人あふらあぢとあて。救ひを求むや。と思念して。只さづふまりのりを。時
 十月の下旬されと。困暖はして木の葉凋を。栗子熟して未落もあふれを。
 これをとりて飢を凌ぐに。氣力いと徒まらぬ。浩処は。前百の巖の蔭より。
 いとたれる荒熊の子を連するが。あぢと。名満ゆとめて。求食つ。樹の下
 らうく。あふら。河とるあうと。えん。谷川のはとらる。嵩を。梵足と。抱き
 あげて。下る。澤蟹を。離態あて拾う。あぢと。これをとて。あふら。寢お

いたし活る物子を慈むるかこそありされと云ふらうらうらうの今親の
 仇人を撃難て。わくとはしされ父母の恩を以て形をたせりたるこそあり
 を身おほし涙を拭く林のゆゑを目を拭くとされがらうらうも。極りはあ
 栗の子れ掌りてとらうくと熊の上を降かれ北熊とれは驚きけん。
 抱し岩を撲地と落せ。憐れ下なる難難の忽地岩を打挫くれ鮮血
 を吐く死なけり。北熊のこの景迹。まじく慌忙と。帰らば岩を挽起
 せど。子のやうく打物は板のごとくになりし。悲鳴くこそ限は毛類
 の。はま。つが殺せと云ふひもけぞ。又樹の上の人あをまじくを
 を見え。右見え。そのもつが子を何物か。かく殺せと云ふまじくの
 いとおどろくしく。四方を睨で味を折ら。羽めし。翅と音はして彼岩頭
 落ちり。これ驚き。その容。熊は一倍して。背より尾頭。二十尺

おもあやうべく。左の翼を捕。前へ後まじく。び翔り。熊へこれ
 を信とえて。つが子の仇とやまひ久。奮然として跳か。鷹の胸先へ爪
 爪打ち。引裂くとするに。熊も亦熊の向脚を挫。鐵のごとく。背より
 刺す。血塗れ。挑と戦ふて引も。これ
 ぞ。就書。猪羽を引裂れ。熊の吭を穴破られて。うらうらうに死なけり。熊へ
 遙。これをえて。熊がその子の死。故をまじく。性の愚かるところ。後
 され。いうおとも。只その敵を。苟も退く。まじく。猛獸の長
 かり。あられも。彼就書。箭に。て。こふ。熊をも引裂。く
 ぞし。まじく。まじく。あられ。いと危う。舌を掉て。只顧。鷹
 を。折。も。あられ。山本。峯上の雲。葉。して。羊の。其
 を。二十八。と。おぼ。壯士。鹿。は。行。鷹の。羽。



雲根
上
熊鷹
關

在言巨別片村近卷之二

春鏡子張月合貴卷之二

負滋藤の弓に握り太刀真中把之。葛直小走して死す。驚と
 とをみて。荒ふとち。嘆と。兩虎食を争ふ。傷くと死す。獠者勞せしむ。
 これを獲り。とつれ。等しく。これ今一隻の就き。射す。くも二匹の就き。
 する。実も不思議の獲なり。とひとり。弓と屢と投捨す。腰より短刀を
 抜出し。就きの刃をうち落せ。怪しむ。瘻口より。白氣隠くと。ちのちを
 ろうぞら。ほして滅失けり。持これ。をて。声を發樹の下。人。これを救
 ひ。多と叫び。か。件の壯士。訝しげ。うち仰ぎ。て。何のぞと。問。落。答。ん
 して。なる。あ。あ。あ。の。人。此。形容。を。え。れ。身。の。丈。ハ。九。尺。筋。骨。逞。く。して。
 声。さ。ぬ。も。亦。尋。常。に。異。な。れ。ば。獠。者。あ。の。あ。じ。又。利。勇。が。士。卒。か。れ。勇。士
 ある。ことを。い。う。も。こ。の。か。る。ら。ば。首。里。より。其。ま。る。間。者。に。こ。も。と。推。量。して。さ。う
 び。声。を。高。く。し。これ。ハ。驟。雲。國。所。ハ。扈。從。し。侍。る。里。之。子。なり。前。夜。故。め。て。

利勇が兵士が擡まされ。首刎らる。不思議に脱ぎて。この樹の又
 小滾落進退空り。せ。ん。を。あ。ら。ば。列。卒。繩。あ。ら。投。め。げ。て。扶。お。し。ま。へ
 か。と。実。事。虚。言。うち。難。化。る。り。憑。こ。ま。ゆ。ま。な。彼。人。あ。ら。投。び。て。答。え
 び。せ。を。推。し。る。り。を。擡。り。を。や。前。を。刺。し。満。月。の。こ。こ。く。彎。固。め。擡。ま。對
 て。發。さんと。さ。ら。け。る。樹。の。上。の。大。た。は。驚。た。れ。何。ホ。の。恨。あり。て。射。す
 落。ま。ん。と。ら。せ。ら。る。中。ん。望。める。身。も。脱。ぎ。か。ら。命。あり。せ。惜。む。ふ。う。ひ。は。
 縁。由。を。あ。ら。じ。し。ま。へ。こ。の。む。あ。ん。の。情。さ。し。と。叫。び。つ。勸。解。つ。繞。る。樹。の。梢。に。ま。る。く
 葉。が。く。れて。顔。の。定。う。ま。え。え。ね。も。親。由。基。が。前。を。ら。り。か。ゆ。と。幹。を。抱。ま。て
 腸。を。絞。る。こ。う。の。叫。び。え。獼。猴。も。か。く。や。と。さ。ひ。や。ら。れて。いと。不。便。と。も。い。へ。ん。え
 ぬ。い。の。木。あ。ら。で。壯。士。ハ。公。は。あ。ら。も。声。を。勵。し。縁。故。を。告。げ。れ。情。さ。し。と。く
 怨。も。せ。ぬ。これ。ハ。原。本。大。日。奉。天。皇。の。廢。流。め。と。鎮。西。八。郎。源。為。朝。と

嗚呼。のり也。故のりて故國を離れ。佳奇呂麻の漂著して。大臣利勇が搦た
 小惑。南風原を赴くとり。とも。利勇狐疑して。三箇條の難を課せよ。く
 このめをほし果る。かろく。重く用ひんとりて。身一條。小録の港にを
 塞く。身二條。辨嶽を射てとる。身三條。曉雲が
 兵士を撃つ。とる。とて。日を限り。かて。これ。地は港にを塞いて。
 辨嶽。小録。既。日。三。せ。も。驚。と。又。敵。小。遭。四。日。及。ぶ
 今朝。至。りて。就。を。射。て。ゆ。り。の。ふ。追。蒐。す。く。曉。雲。が。身。の
 りのこと。各。告。を。い。う。で。放。た。れ。汝。は。怨。み。し。と。り。も。國。賊。は。從。ひ。て。天
 罰。の。詔。脱。を。と。れ。よ。の。ひ。の。命。運。の。場。も。心。と。親。念。し。て。潔。く。首。を。結
 させ。南。無。阿。弥。陀。佛。と。唱。も。め。ん。ど。よ。引。漂。と。切。く。發。の。電。を。外。し
 ろ。い。え。その。箭。踏。が。身。を。と。り。て。い。く。世。存。す。ん。高。木。の。幹。の。中央。を。射

入。の。壓。折。の。ごとく。滅。離。く。と。梢。忽。地。地。に。下。り。て。落。る。小。枝。に。撞。り。て
 ち。に。聊。も。身。を。傷。む。と。を。ら。地。上。に。を。り。て。も。曩。の。劍。の。失。ひ。つ。身。を
 寸。鐵。を。帶。され。就。も。ま。た。れ。無。則。を。抜。り。て。為。朝。を。刺。入。と。る。以。り。て
 丁。と。打。落。し。の。の。く。し。や。と。猿。臂。を。伸。し。て。落。が。項。髪。の。魁。捨。倒。し。て。膝。を
 組。布。首。を。押。し。て。比。り。て。その。面。を。見。え。へ。い。と。藕。蘭。の。少。年。を
 づ。が。身。を。と。り。よ。と。と。る。も。か。ど。う。け。英。少。年。を。射。入。り。の。勇。士の。差。る
 所。の。助。け。も。と。お。せ。し。ふ。引。起。さん。と。志。ま。ふ。拵。も。亦。一。人。の。英。少。年。
 端。く。走。り。す。る。小。太。刀。を。電。光。の。よ。う。に。振。り。て。為。朝。を。破。く。と。す。る
 を。見。え。て。な。が。ら。身。を。反。す。又。その。刃。を。う。ち。落。し。組。人。と。と。る。を。引。は。し。て
 眩。暈。か。い。こ。こ。動。し。ま。る。は。是。彼。を。つ。く。く。見。て。ま。づ。下。り。て。引。起。し
 汝。が。面。鏡。の。よ。う。に。肖。ら。る。胞。見。ま。る。を。じ。い。う。な。れ。け。の。子。を。れ。ぞ。や



巨樹を折て
為朝龍龜
を識



時宜ふよりば命を助んぞしく名告れと宜ふ。汚龜ハ毒を切てかくす。運場て見せらる死するも。憐れ人なり。命強顔環會て今亦足下の穢。兄弟を尋ねたり。見ハ父兄。命強顔環會て今亦足下の穢。どがれ。是過世の悪報と云ひ。憐れ人なり。恨もほ。この國の人なり。生るるもかひつらん。就果山の執事より。猛き公よ。あられ。父母の仇人。おむらる。首を。い。人。毛。狐。汚龜つりと答ね。いと潔く。いと。兄と。健氣。さて。朝を小膝を拍て驚嘆。左手に抱き縮め。龜を放て。塵。拂ひ。人の言。名を。面を。不。この。決。汝を害せ。為朝故國。住。漂。縁故ハ一朝小説盡さ。うも。ねど。せし。を。空

この國へ推渡了。舊虬山の麓。王女麻夫人の患を。大蛇の珠。代。その舊恩を復さんと。小琉球。王女を救ひて。佳奇呂麻。磯。南風原。赴。て。後。勇。罪を正さんと。眞實彼。助。れ。あ。海。親。子。兄。弟。の。忠。孝。を。寧。王。女。の。物。を。り。に。せ。し。救。ひ。出。ま。ん。と。と。ひ。つ。ら。ら。が。身。容。を。れ。後。を。あ。れ。む。違。う。い。と。痛。く。も。胸。苦。し。た。為。朝。が。誠。を。か。ど。組。ま。き。う。る。後。警。果。と。が。後。と。志。れ。も。か。ひ。あ。ん。や。さて。危。れ。る。も。危。う。り。今。汚。龜。を。ん。る。飲。ひ。の。舊。虬。山。の。麓。あ。て。解。を。は。る。に。異。形。を。見。る。や。く。佳。奇。呂。麻。は。赴。て。寧。王。女。は。給。事。よ。と。叮。嚀。小。説。示。多。く。汚。龜。を。実。を。り。と。せ。て。同。胞。ハ。小。琉。球。の。嶋。北。あ。て。討。ち。の。丘。を。防。ぎ。戦。い。が。王。女。を。救。ひ。進。む。を。見。ぶ。さ。れ。ば。こ。そ。勢。竭。く。虜。に。せ。れ。首。里。に。到。て。と。ひ。も。か。け。と。曠。野。國。師。の。憐。愍。心。を。

被り。その誠心をあはれるのさむらと。寧王女ハもや。王宮よ。あしきまを。外さる
 見よ。せり。はしや。言を巧はして。他人を欺くも。吾侪をいうて。欺き。忍んて。あて
 ぬく。ひ。勝負を決し。汝が。る。よ。替る。とも。誰を。訪んと。て。う。さ。る。く。と。佳奇
 呂麻へ。赴く。へ。き。と。同胞一。齊。冷。笑。へ。が。為。朝。す。と。く。嗟。嘆。して。汝。兄。才。伶。利
 と。い。へ。も。年。少。多。れ。が。玉。石。を。辨。せ。ど。汝。亦。を。賺。せ。し。の。矇。雲。が。好。智。は。して。王。女
 汝。お。ち。ろ。け。け。小。え。せ。ら。う。の。亦。足。者。奴。が。幻。術。あり。つ。れ。汝。亦。を。欺。ま。て。何。の。益。う。め。
 膝。の。下。は。紐。布。さ。ら。ら。その。名。を。受。て。助。し。て。輝。の。虚。実。の。あ。ら。た。なり。つ。れ
 半。世。の。勇。を。り。て。い。ま。も。と。利。勇。の。罪。を。回。ら。ど。況。て。汝。違。が。小。腕。を。り。て。輒。く
 亦。力。を。遂。が。じ。且。く。佳。奇。呂。麻。小。才。次。郎。と。忠。を。王。女。小。嶋。せ。じ。つ。れ。時。を
 仍。が。共。ふ。計。了。て。親。の。仇。人。を。替。し。ま。ん。え。ら。う。よ。く。深。念。して。迷。ひ。を。れ
 よ。と。諭。し。多。く。の。亀。の。頻。ふ。驚。嘆。し。これ。を。て。あ。ひ。あ。い。を。れ。が。この。曉。日。首。里。の

大将耳目官全廣が。それを救りて。矢石を。射。て。殺。んと。し。く。め。り。し。を
 矇雲が。詭。の。謀。を。あ。ら。ふ。足。り。ぬ。此。く。の。ゆ。ゆ。ひ。と。その。才。も。谷。一。滾
 落。と。誘。が。往。方。と。索。う。ひ。舊。の。処。へ。ま。か。つ。た。ふ。兄。が。組。存。れ。ら。を。え。て
 これを。助。ん。と。せ。顔。末。を。あ。ら。も。な。く。告。げ。け。れ。が。誘。も。瞳。り。て。あ。く。悲
 愧。感。涙。ゆ。ゆ。袖。を。濡。し。て。為。朝。の。や。う。と。や。う。某。兄。才。思。慮。深。く
 ち。く。矇。雲。に。こ。う。れ。か。る。ぐ。し。く。南。風。原。の。城。に。潜。び。入。り。と。つ。ら。り。決
 を。釀。し。亦。眼。暗。し。て。英雄。を。怨。む。は。十。圍。は。あ。ま。なる。大。木。と。只。一。箭。は。折
 が。あ。ら。ふ。弓。勢。り。て。某。を。射。ま。ん。ざ。り。し。の。あ。ら。う。あり。て。の。さ。め。ら。う。く。ま。り。疑。ひ
 ち。り。し。こ。も。罪。あ。ら。れ。君。の。日。の。本。れ。皇。孫。が。寧。王。女。の。恩。人。あり
 之。箇。條。の。筋。を。定。め。て。手。次。空。く。ゆ。り。ま。ら。利。勇。の。よ。く。用。へ。う。と。て
 とも。捨。つ。れ。身。は。し。あ。れ。が。誘。が。首。を。刎。り。利。勇。に。お。ら。り。發。跡。多。ら。り。身

亀が仇人を撃つ。すかどるべし。撃つ人とは。項を伸と。兄は
 久退龜こそ捨つた命なれ。兄は存命時をすちて。阿公を撃つ。利勇と
 撃つ。この世の世れ主親へ忠孝を盡して。たぐといひつ。けを白合堂。恩
 義も勇め。死をとも辞せ。その争ひや。君子なれ。この見は。ておの朱
 いと有。うら少年うね。と為朝顔。吐賞。これ今。矇雲が士卒。撃つ。好
 して。裸役一箇條を。缺ふ似。れど。をうら。びも。おの熊を。ほ。り。夫。然。の
 男子の祥春。の生。樹。登。り。の。蟄。り。て。穴。入り。勇。を。好。て。之。と。あ。る
 りの。こ。され。二頭の熊を。りて。兄と。弟が。首。代。大臣。利勇。以。欺。く。之。謀。の
 か。や。う。く。と。密。中。り。の。告。め。り。て。熊。の。皮。を。打。お。し。亦。その。膽。を。撈。出。して。これ
 を。持。て。海。へ。与。つ。宣。ふ。や。う。然。膽。の。り。易。く。故。よ。その。價。最。貴。と。是。を
 腹。せ。の。心。を。清。し。肝。を。平。し。目。を。明。は。して。醫。を。去。蝮。蟻。虫。を。殺。す。沙。達。

その一ツを。魚。口。踏。費。と。し。一ツを。寧。王。女。進。了。せ。よ。彼。越。よ。至。る。は。つ。が。え
 も。つ。が。亡。妻。の。み。や。でも。審。に。あ。る。は。あ。ら。ん。か。ら。ん。人。の。怪。れ。そ。を。い。た
 経。と。促。す。へ。胞。兄。弟。を。受。捧。ぐ。地。上。は。額。つ。た。滅。し。君。に。仁。我。の。人。なり。
 この再生の恩を。お。り。入。の。驚。巢。山。も。ま。は。低。し。世。の。う。ら。雲。れ。た。と。ぞ。す。ひ。
 志。に。隠。る。月。の。痛。れ。と。ま。う。り。ほ。ろ。ろ。互。代。り。の。過。世。の。争。は。因。縁。あり。公
 中の哀。飲。の。こ。に。説。も。竭。か。じ。命。あり。時。い。ら。る。再。び。落。り。あ。を。ら。み
 京。の。佳。奇。呂。麻。松。は。便。り。と。て。彼。時。は。推。渡。り。王。女。は。釋。の。越。を。生。ま。り
 さんと。答。果。と。兄。弟。一。存。牙。を。起。し。い。と。露。け。れ。谷。蔭。の。且。開。の。風。の。吹
 入。り。袂。を。吹。て。う。ら。ら。り。て。為。朝。と。驚。龜。を。樹。が。ら。れ。す。ま。で。目。送。り。て。誓
 と。然。と。か。二。ツ。の。頭。を。藤。蔓。り。て。結。束。し。弓。に。引。け。て。肩。の。踏。ま。れ
 踏。を。た。と。く。辨。嶽。の。麓。に。出。る。午。の。見。あ。く。は。ゆ。り。たり。折。り。ゆ。れ。

この山陰に住居する。樵夫獠者亦が津家二千戸。悉うち破れ。一
 村の老弱男女或は斫仆され或は瘵を被り。道の傍に泣くを。為朝
 これを見てもしがうて。その板を同多へ。まゐり申す。此の南風原どの
 所領より。蒙雲國師の大將。全廣と申す。南風原を攻め
 たり。軍兵を申す。これふ計策合期せむ。いづれにまゐるを。面目はと
 やむひん。数も足らぬ。かゝる里を。かゝる乱妨せられ。と公はせげ。お
 抱され。乃朝これを。父もあふ。その軍兵行処。者奴も首級の
 いとけられ。塵はして。と憑り。お守へ。里人多し。いひ申す。
 それいこの。曉が。この。今。引退き。は。この。いそひそ
 何処の人。南風原へ。赴た。か。小大臣。縁由を
 訴へ。これの。と。いふ。間。為朝の。懐より。茶餅一包を

とり出し。これの日本の漂客。為朝といふ。あり。齋したる。か。お
 あり。金瘡を。極めて。ぬ。この。く。用ひ。よ。南風原。到る。緯
 の。を。し。と。叮嚀。い。耐。て。件の。茶餅を。遍。里。人。ホ。れ
 を。受。ら。戴。れ。故。ぶ。こと。大。か。て。為朝。全。度。撞。見。さ。り
 此。迷。憾。お。せ。も。さ。て。あ。く。た。あ。さ。れ。が。この。里。を。ら。て。川。良。の。う。こ
 へ。い。た。つ。粹。嶽。の。山。脚。の。林。原。入。り。人。跡。後。て。樹。立。際。ま。踏。ひ。と
 暗。ま。か。り。山。神。廟。の。り。け。り。小。至。り。弓。に。掛。る。鷲。鳥。の。心。地
 小。樽。び。落。る。を。拾。ひ。あ。げ。て。結。ひ。と。え。ま。あ。亦。滾。く。と。轉。落。あ。り。め。と
 か。や。と。極。き。抱。ま。て。と。え。れ。古。廟。の。宝。前。大。石。の。散。錢。櫃。あり。これ
 こ。そ。究。竟。の。物。な。れ。と。知。り。ら。れ。て。その。ほ。と。り。人。ま。り。多。く。廟。を。い。そ。く
 荒。く。狐。兔。の。跡。を。印。し。棟。梁。か。ら。れ。て。鷲。巢。樓。を。ひ。く。り。い。ら。る。神。の

只管為
朝回也
二迷ハス

古藩不語
為朝人子
遣人



本言石原月村遺卷之二

古藩不語
為朝人子
遣人

七四

なりたるのま擔のま不え扁額のま。内うちは神體あはれありければ人も清きよまらね右廟みぎのみやに設たて錢せん
 櫃ひつありとも益あきなし。この改かへをこの櫃ひつに納いれめてゆる便びん宜まなり。これ借か
 色いろと手てをかけて打うちた蓋かきかいかり多おほく。あひもかきを櫃ひつの内うちに人ひと
 の美女ひちやく縣あきもくもく。此こゝ彼あつひとしく面おもてをあけて。こゝろいふもこゝろに互あひま
 小呆あままる怪あやろ。立たち出る女子よめの袖そでを為な朝志あそと引ひきりて。つぐとえ
 多おほく。唐たういと素あくして楚そ臺たいの雪ゆきをも欺あざくべく。黒くろ髪かみの長ながく白しろ中ちゆうなる
 未央みづかの柳やなぎと疑うたがれ。ありと衣きぬは笛ふえ奇き南なん殘ざん了りょうて。その容よう賤せんく。西せい施し
 かしら。吳ご宮みやう小こ入いらるると野や花はな偏ひん目めに艶うつくしく。小町こまちが玉たま簾れんを吟ぎんする
 と。暮くれ雪ゆき月つきを吐くく似にたり。これい神かみ飲いん人ひと次つぎの卷まきを續つけて去さるん。

椿説弓張月拾遺卷之二畢



